

—— トライボロジー遺産5号 ——

明治後期～昭和初期にかけて開発された国内主要油田の原油サンプル

Crude oil samples from oil fields developed in late Meiji to early Showa period

日本における各種産業の興隆から近代化に至る明治後期～昭和初期〔1890（明治23）～1935（昭和20）年頃〕において開発された国内主要油田，および当時日本領（～1945年）であった国外の油田から採取された原油サンプルである。具体的には，新潟県内5油田，秋田県内14油田，山形県内1油田，国外4油田から採取された合計24種の原油サンプルである。

国内油田の開発が極めて狭い範囲で行われている今日，約80～100年前の日本の産業の基盤づくり，およびその後の発展に大きく貢献した国内油田の生きた物証として，本原油サンプルは極めて貴重な遺産と位置付けられる。また，本原油サンプルが採取された国内油田の90%が既に閉山し，新たな原油の採取は不可能であることから，本原油サンプルの史的価値は高く，貴重である。1922（大正11）年までは，国内原油からの潤滑油供給量は全体の50%を超えていた。良質の潤滑油が得られた新津原油，豊川原油，道川原油さらには航空機用高級潤滑油が生産されたバリックパパン原油，日本の石油産業発祥の地の原油などが含まれているこれらの一群の原油サンプルは，現在に至る日本の潤滑油および潤滑技術の源流にあたるものとして，後世に伝えていきたい貴重な遺産である。

[全24種の原油サンプル中の4種]



新津原油

（新潟市秋葉区新津地区）



尼瀬原油

（新潟県出雲崎町，
石油産業発祥の地）



豊川原油

（秋田県潟上市
昭和豊川地区）



濁川原油

（秋田市濁川地区，
“石油秋田”発祥の地）

《写真提供：秋田大学》

公開情報 国内主要油田の原油サンプル（24種）

公開場所：秋田大学工学資源学部 4号館，環境応用化学科 2F展示コーナー
事前にお問合わせ下さい。

入場料：無料

休館日：土曜・日曜・祝日・年末年始

住所：〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

電話番号：018-889-2750

HPアドレス：<http://www.chem.eng.akita-u.ac.jp/>

交通機関：JR秋田駅からバスで6分（秋田大学前）

